

## 付記2 「総合的な学習の時間」との関連

### (1) 「総合的な学習の時間」の目標

総合的な学習の時間の目標は、以下のようにになっている。

#### 第1 目標

横断的・総合的な学習や探究的な学習を通して、自ら課題を見付け、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力を育成するとともに、学び方やものの考え方を身に付け、問題の解決や探究活動に主体的、創造的、協同的に取り組む態度を育て、自己の生き方を考えることができるようにする。

総合的な学習の時間の目標は、以下の五つの要素から構成されている。

ア 横断的・総合的な学習や探究的な学習を通すこと

イ 自ら課題を見付け、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力を育成すること

ウ 学び方やものの考え方を身に付けること

エ 問題の解決や探究活動に主体的、創造的、協同的に取り組む態度を育てること

オ 自己の生き方を考えることができるようにすること

この五つの要素のうち、アは総合的な学習の時間に特有な学習の在り方を示している。すなわち、総合的な学習の時間においては、横断的・総合的な学習や探究的な学習を通すことが目標であり、これを前提にしてイ、ウ、エに示された資質や能力及び態度を育成していくことを求めている。総合的な学習の時間では、これらの資質や能力及び態度を育成しつつ、オに示された自己の生き方を考えることができるようにすることを目指している。

今回の改定においては、総合的な学習の時間を「横断的・総合的な学習」に加えて「探究的な学習」とすること、この時間において「協同的」な態度を育てることが明確にされた。

### (2) 「社会科」と「総合的な学習の時間」を関わらせた単元構成

総合的な学習の時間の年間指導計画を作成する際には、各教科等との関連的な指導を行うことが求められている。もちろん、「社会科」と「総合的な学習の時間」を関わらせて単元を構成することも可能である。

その際、総合的な学習の時間を、社会科で身に付けた知識・技能等の「実践の場」、すなわち「出口」としてとらえて関わらせることを意識したい。

二つの事例を紹介する。

「社会科」から「総合的な学習の時間」へ

例としては、中学年の単元である「わたしたちのくらしとごみ」が挙げられる。

この単元の学習を通して、「自分たちのまちにもごみの問題はあるのか」という課題をもたせる。この課題意識を基に、「自分たちのまちのごみを調べてみよう」という「総合的な学習の時間」を展開していく。

この活動の中で、自分たちのまちのごみの種類をグラフや表にまとめたり、新聞などの表現物を通して他者に伝えたりすることも可能である。

また、「ごみを減らすためにはどうすればよいだろう」といった新たな課題を発見し、課題解決を行うこともできる。

社会科だけではできなかった発展的な内容を、総合的な学習の時間を活用することで、学習することが可能となる。

「社会科」から「総合的な学習の時間」、そして「社会科」へ

例としては、中学年の単元である「わたしたちのすむまちや広島市の様子」「安全なくらし」が挙げられる。

「わたしたちのすむまちや広島市の様子」を学習した後に、「私たちのまちは、住みよいまち・すてきなまちか調べてみよう」という「安全」を視点とした「総合的な学習の時間」を展開していく。ここでは、地域の人にインタビューを行ったり、警察の方の話を聞いたりする。

その後、社会科で「安全なくらし」を学習することにより、私たちの地域の中にも、「安全」を守る工夫がされていることにも目が向き、より多面的に社会科の学習を進めていくことができる。

### (3) 「社会科」と「総合的な学習の時間」を関わらせながら学習する時の留意点

社会科には社会科のねらいがあり、総合的な学習の時間には、総合的な学習の時間のねらいがある。両者を関わらせながら学習するときには、それぞれのねらいを十分理解した上で、区別して学習を進めていくべきである。

「社会科」と「総合的な学習の時間」の違いを意識せず安易な関わり方をすると、それぞれのねらいを達成することができなくなってしまうので注意が必要である。

#### <引用・参考文献>

- 文部科学省『小学校学習指導要領解説 総合的な学習の時間編』，東洋館出版社，2008年
- 岩田一彦『社会科固有の授業理論 30の提言—総合的な学習との関係を明確にする視点—』，明治図書，2001年
- 片上宗二・木村博一・永田忠道編『混迷の時代！社会科はどこへ向かえばよいのか』，明治図書，2011年